

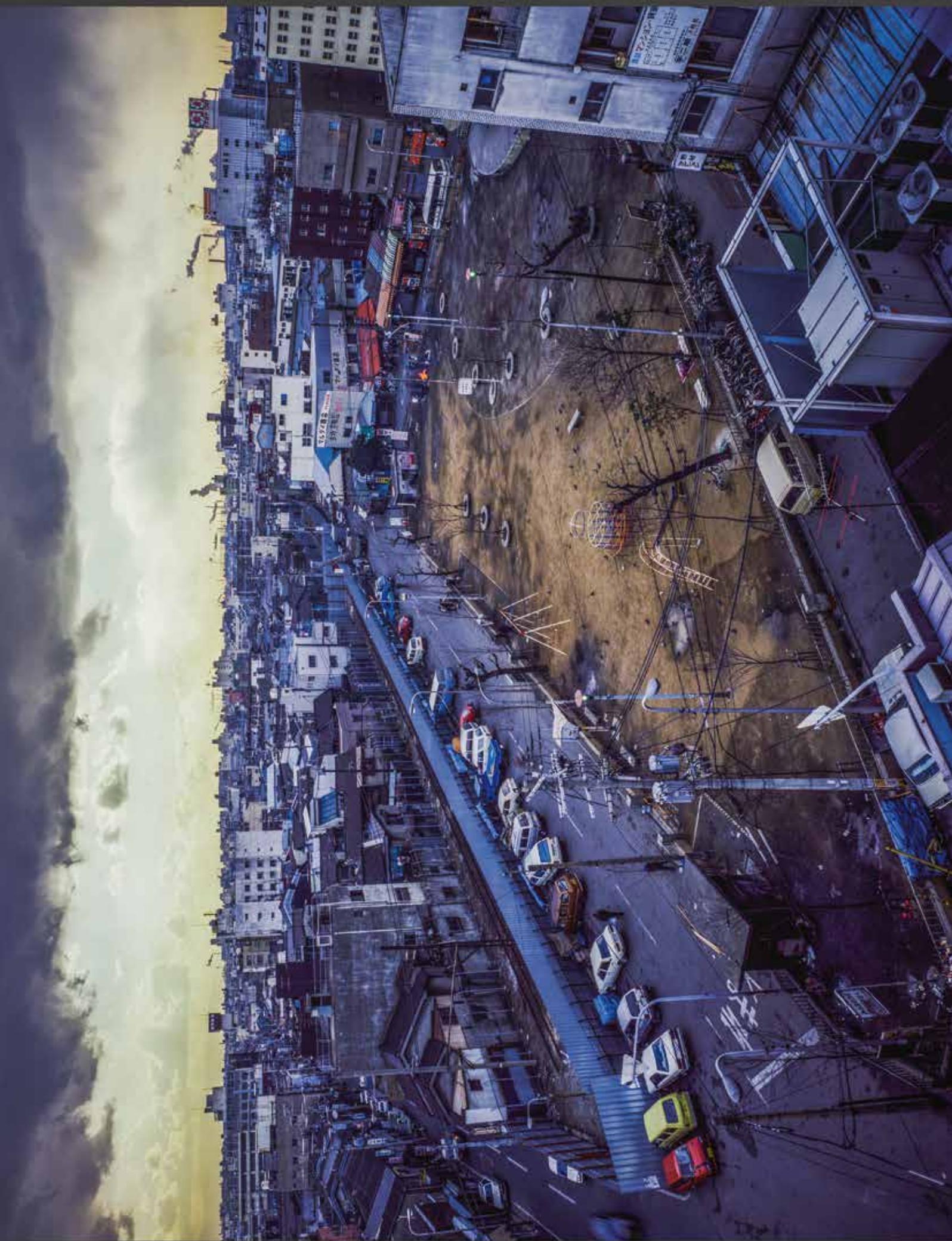
# 建築人

2025  
5

Osaka Association of Architects & Building Engineers  
Newsletter "Kenchiku-Jin" No.731

シリーズ 大阪・関西万博をめぐる





# 建築人

2025.05 No.731

Osaka Association of Architects & Building Engineers  
Newsletter "Kenchiku-Jin"

表紙の建築 「蓮真居」2020年

第16回 建築人賞奨励賞 受賞作品  
設計：木原千利設計工房 木原千利  
施工：藤木工務店 倉敷支店  
撮影：松村芳治

ご夫妻と娘夫婦と孫二人の二世帯の住宅。敷地の南側が道路に面する和風の住まいの計画である。道路との緩衝帯として庭を大きく設け、住まいを配置した。一文字葺きの伸びやかな庇が庭と内部に一体感を生み、和風の趣ある住まいを創り出した。

2 大阪浪漫

4 Gallery 建築作品紹介

「桃山学院和泉キャンパス エレノア館」

設計監理：藤木工務店一級建築士事務所

建築施工：藤木工務店・南海辰村建設 共同企業体

「大阪公立大学看護学部学舎」

設計：公立大学法人大阪・昭和設計

施工：大林組

6 Close-up Osaka

8 シリーズ 大阪・関西万博をめぐる

16 News of Note

18 動静レポート

19 Topics

20 Information

22 記憶の建築

「天神ビル」1960年

品格湛えた街角ビルの魅力 / 松隈 洋

## 大阪浪漫

(1986年・西成三角公園)

写真・文 喜多 章

大阪に在る濃厚異端スポットの西成三角公園を撮影しようと、全体が撮れる場所を探しながらウロウロしているとあちこちから酒の匂いが漂ってくる。そうこうしていると公園の角に簡易宿泊施設らしき建物を発見、入り口の受付風の場所に人がいたので三角公園を撮りたいんで上がらせて貰えないかと頼むと色んな人が泊まってるんで気を付けてと言われ、細い階段を重い機材担いで最上階まで上がり廊下隅の窓際から撮った写真。後で知った事だが当時このエリアが日本のワンカップ酒売り上げナンバーワンだったと知り、なるほどと感心した事を思い出した。

建築人 No.731 2025年5月号

監修 公益社団法人大阪府建築士会 建築情報委員会

編集 建築情報委員会『建築人』編集部

部門長：田鍋 稔

委員長：松下典央(編集人代表)

編集人：武藤優哉 石上芳弘 荻窪伸彦 河崎太平

昇 勇 橋本頼幸 春岡須磨子

三谷勝章 村上栄司 山本恭史

事務局：辻本和人 母倉政美

ロゴ・フォーマットデザイン 芝野健太

印刷 中和印刷紙器株式会社

令和7年5月1日発行

発行人：会長／岡本森廣

発行所：公益社団法人大阪府建築士会

〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5F

tel. 06-6947-1961



学院創立140周年記念事業としてカーボンニュートラルの実現と地域連携の拠点となる新校舎を木造で建設する計画である。木質の外観にガラスカーテンウォールを組み合わせ、構造柱やブレースを現しに見せ、木の温みのある空間での学生たちのアクティビティが外からも見える開放的デザインとした。屋根の庇は外装保護と夏季の日射抑制のためCLTを持ち出して使用した。1階は地域共創ホールとして開放され交流イベントの場としてキャンパスの未来像を提案できるスペースとなっている。緑豊かなキャンパスの木造新校舎が地域と共に育つ『共創の森』となることを願っている。（岡本真一・梶本佳祐/藤木工務店）

所在地：大阪府和泉市  
 用途：学校  
 竣工：2024.11  
 構造規模：木造  
 地上3階  
 敷地面積：39,699.19㎡  
 建築面積：845.76㎡  
 延床面積：2,219.48㎡  
 写真：エスエス



市立大学・府立大学の統合による大阪公立大学の誕生とともに、医療系の学部を阿倍野キャンパスに集約するにあたり計画された新たな学舎。高密度な敷地の中で、色調やバルコニーがまわるといった既存棟の形式を継承しつつも、気品、清々しさや細やかさ、成長や飛躍を感じさせる高層部分と、柔らかさ、親しみやすさをみせる低層部分とで構成される、非対称な外観デザインは、キャンパスに新たな表情を加え、街に開き社会につながる姿勢を表している。これからの時代にますます必要とされる看護という分野が、より身近に感じられるとともに、より多くの若いみなさんがこの分野を志すようにとの願いが込められている。

所在地：大阪市阿倍野区  
用途：大学  
竣工：2025.03  
構造規模：鉄骨造  
地上16階  
塔屋1階  
敷地面積：28,353.79㎡  
(キャンパス全体)  
延床面積：17,966.64㎡  
(看護学部学舎のみ)  
写真：エスエス大阪

## 第4回近畿学生住宅大賞 報告



橋口新一郎(建築表彰部門 担当理事)

### ■近畿学生住宅大賞

未来の建築士である学生の住宅設計課題を対象とした、コンテストである「近畿学生住宅大賞」が第4回目を迎え、最終審査・表彰式が行われた。この賞の特徴は、他のデザインコンペと異なり、各大学・専門学校で学生達が取り組んだ設計課題を対象としているところにある。共通のテーマは、戸建て住宅から集合住宅まで、人の住まい方に着目したものであるが、各大学で求められるスキル、アイデア、評価基準も異なり、一堂に会すると、各学校の設計課題の特徴が見え隠れもする。学生や教育者、私たち設計士にとっても大変刺激的で、有意義な機会である。応募期間は、2024年9月1日(日)から9月23日(月・祝)、近畿圏内の建築系大学、高専、専門学校に在籍する学生(大学院生除く)を対象に募集、97点の応募があった。



学生住宅大賞第4回目募集リーフレット

### ■審査について

審査は、応募された図面による一次審査、図面・模型及び設計者の公開プレゼンテーションによる最終審査の2段階方式で行われる。一次審査で5人の審査員より選出された上位約20作品は、入賞の対象となり最終審査へ進むことになる。設計者は、公開審査

会場に図面、模型を展示した上で、順次プレゼンテーションと質疑応答を行い、各賞を決定する。また本賞に合わせ全応募作品に対して、協賛企業が選出する企業名を冠とした「企業賞」も設けられている。

### ■審査結果について

5人の審査員による厳正なる審査の結果、最優秀賞1点、優秀賞2点、奨励賞4点の他、入賞および企業賞9点が選出された。



#### <最優秀賞>

- ・ゆりの木ハウス～新しい住居システム「セレクトティブハウス」～  
増本唯衣(明石工業高等専門学校)



#### <優秀賞>

- ・cliff\_house 坂本紘都(近畿大学)



- ・うつろいの映写機 岡村悠登(摂南大学)

#### <奨励賞>

- ・解放シテ、開放セヨ  
一都市に集まってくらす居心地一  
高田颯斗(大阪工業技術専門学校)
- ・Intothecave 一光と人が集まる空間一  
田中碧乃(近畿大学)
- ・屋根の暮らしの屋根  
原田成己(近畿大学)
- ・駐車上の家  
市川葉子(京都府立大学)

#### <入賞>

- ・夏尚(京都精華大学) ※
  - ・守田梨乃(近畿大学) ※
  - ・安達志織(京都大学) ※
  - ・辻 遥佳(京都美術工芸大学)
  - ・早坂樹莉亜(神戸芸術工科大学)
- ※は企業賞も受賞

#### <企業賞>

- ・内川璃乃(大阪公立大学)
- ・上野山亜希(武庫川女子大学)
- ・吉田美来(畿央大学)
- ・谷川虎雅(大阪芸術大学)

### ■本賞・企業賞の意義

もとより住宅は、寝て起きて食べて寛ぐという人が生活する基本的な機能を備えたもので、風呂・トイレ・台所などある程度固定された諸室も求められる。しかしながら、ただ機能を満たし、諸室を並べただけでは評価はされず、このコンテストでも同様に新しい提案が求められる。学生にとって、初めての設計行為に近い課題にも関わらず、多様なアイデアを捻出し、ひとつの住まいとして提案された作品はどれも新鮮である。一方でまとまりきららずアイデアだけに留まっているものの、まだ見ぬ「空間」を想像させる多くの佳作が毎年のように輩出されている。

提出される図面だけではなく、模型、プレゼンテーションなど審査会場だからこそ味わえる、リアルな緊張感の中で見て学び、体得できる自由な発想が連なり、年を追うごとに積層されていく中で、このコンテストの様相が見えてきたように思う。設計課題をそつなくこなすことも重要なことに間違いはないし、奇

拔なアイデアだけが何故評価されるのかと疑念を抱いている学生も少なくない。審査員も我々ももちろんそんなことは承知しているし、そういった作品の中に、学生がまだ気づいていない面白いことに気付かせるきっかけを作っているのであって、そこにこのコンテストの大きな意義がある。また、協賛していただいている企業様においても、優秀な学生との出会いの場であるだけでなく、審査会場で得られる知見そのものが、各企業の大きな財産となるはずであり、私たち設計士にとっても、学生・企業との繋がりを深める絶好の機会でもある。



優秀賞(坂本紘都さん)の図面と模型



審査会場



優秀賞(岡村悠登さん)の図面と模型



最優秀賞(増本唯衣さん)の図面と模型



審査会場の様子

### ■最後に

学生の皆様は是非、第5回近畿学生住宅大賞にご応募ください。また本コンテストにご協力いただきました、審査委員、協賛企業、近畿建築士協議会の皆様に心より御礼申し上げます。

### ●審査委員(50音順)

阿曾芙実／阿曾芙実建築設計事務所  
河合哲夫／竹中工務店  
島田陽／タトアーキテクツ  
白須寛規／design SU 建築設計事務所  
平塚桂／ぼむ企画

### ●協賛企業(50音順)

建築資料研究社／日建学院  
一般財団法人滋賀県建築住宅センター  
積水ハウス株式会社  
株式会社総合資格  
大和リース株式会社  
輝建設株式会社  
株式会社山弘  
株式会社吉住工務店  
吉田製材株式会社

### ●主催: 近畿建築士会協議会

(公社) 滋賀県建築士会  
(一社) 京都府建築士会  
(公社) 大阪府建築士会  
(公社) 兵庫県建築士会  
(一社) 奈良県建築士会  
(一社) 和歌山県建築士会

### ●近畿学生住宅大賞HP

< <https://www.abaosakafu.or.jp/kinki/index.html> >



過去の作品は、上記HPからご覧いただくことができます。

## 休憩所2



休憩所2は自然石を吊した日除けの役割を担う石のパーゴラ、休憩所やトイレなど機能を持つ建物、さらに敷地全体の外構によって来場者の方々に休憩スペースを提供する。

休憩所2では、仮設建築物を万博会期の半年間という短い時間の単位で考えるのではなく、人類や地球といった、なにかもっと原始的で壮大なスケールの時間感覚でつくれないかと考えた。

石は、何万年という月日を経て地球が創り出してきた「大地の資源」である。大阪城にも使われた瀬戸内産の石を、会期中は空へと持ち上げ、日除のパーゴラとして活用する。会期後は大阪湾の窪地の改善や海の生き物の居場所となるよう、石を海へと還元し、「海の資産」として未来へと引き継いでいく。

大地、空、海をまたぎながら、何万年も前の過去から、何万年先の未来へと時間をリレーする石の仮設建築物である。

設計：工藤浩平建築設計事務所  
構造設計：合同会社平岩構造計画  
設備設計：株式会社森村設計  
施工：株式会社住建トレーディング  
構造：(パーゴラ)RC造一部鉄骨造  
延床面積：486.63㎡

## 休憩所3



©Malibu Fukuda

©Malibu Fukuda



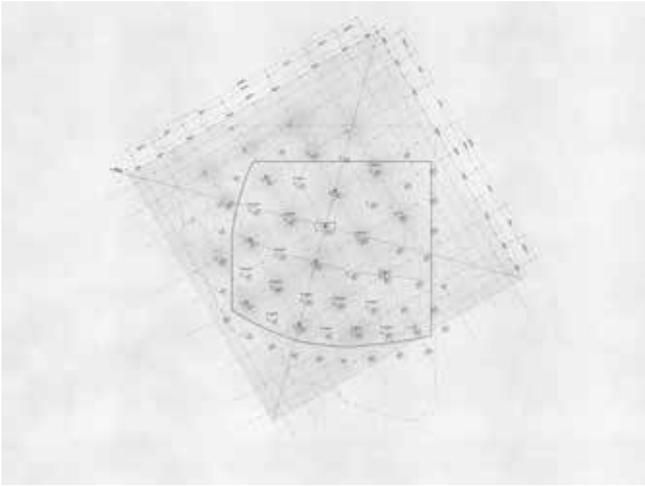
©Yuta Gongyo

静けさの森につづく植物群と小さくもユニークな人工物が寄り集まる休憩所。トイレ、案内所、休憩室に加えて、応急手当所、警察官詰所、情報通信機器の機械室など、来場者が立ち入らない建物ボリュームも多い。敷地全体はフードトラックやテーブルが並ぶ飲食の場でもあり、多くの来場者が日陰を求めて集まることが予想される。

頭上に広がる樹冠や立ち並ぶ幹、背の高い草花に覆われたお椀型のマウンドに、建築物の柱や壁、屋根が寄り添い、心地よい半屋外空間を連続させることを試みた。それぞれの植物や建物がもつ異なる色彩と形の連なりが編み込まれ、独自のテキスタイルを伴った風景が其処此処に立ち上がる。パビリオンという自律的なデザイン倫理が建ち並ぶ万博の場で、それでも個と風景について考えたいと思い、敷地内では完結しない建築とランドスケープの在り方を目指した。

設計：山田紗子建築設計事務所  
構造設計：株式会社テクトニカ  
設備設計：有限会社ZO設計室  
施工：株式会社シマ  
構造：木造、鉄骨造、2階建て  
延床面積：568.23㎡

## 休憩所4 Earth/Roof



万博の開催地である夢洲は、埋立地であるがゆえに地盤が弱く、建築行為の前提として、建設予定の建物と同重量の土を廃棄することが必要条件となっていた。

相応のコストと環境負荷が生ずる土の廃棄に、何か建築的な価値を見出せないかと考え、「掘る」という行為から直接的に生まれる建築の在り方を探った。敷地全体にグリッドを引き、その交点に山と谷が交互に現れるよう、掘削を行う。そうして出来た地形を型枠とし、鉄筋を添わせてゆくことで、地形と同形状の鉄筋メッシュを成形する。メッシュを吊り上げ、90度回転させ再配置すると、地形の山とメッシュの谷がグリッドの交点で重なり合う。鉄筋メッシュはパーゴラ状の屋根となり、地形と屋根の間は、連続する洞窟のような、ひと繋りのスペースとなる。地形の山から伸びる藤は、屋根をつたって木陰をつくる。会期後、取り壊されることなく隣接する「静けさの森」と共に残され、数年後には藤やその他の植物に覆われた魅力的な廃墟のような場となることを期待している。



設計：MIDW + Niimori Jamison  
 構造設計：柳室純構造設計  
 設備設計：シーソー建築設計事務所  
 ベンチ設計・施工：studio arche  
 施工：加登脇建設  
 構造：鉄骨造2階建て  
 延床面積：248.84㎡

## ギャラリーWEST Gallery Triggering



©JUMPEI SUZUKI

目的に捉われず自然と交歓し時間の変化や場所のリズムを楽しむ暇のふるまいが発露する建築。“光、風、重力など自然の摂理の視覚化する形態”、“手触り、匂い、視覚など五感を刺激する物質”から身体感覚を呼び起こす建築。こうした建築体験の先に、現代の暮らしの仕組みや事物連関の捉え直しが見えるのではないか。

Gallery Triggeringは大阪・関西万博のギャラリーWESTとして設計され、2つの屋内ギャラリーとそれを包摂する大きな覆いの半屋外ギャラリーから成る。10m～14mほどの大きなスパンを覆う大屋根は、100mm×50mmという小さなピースの鉄骨溝形鋼を連結して構成され、緩やかに重力の摂理に即して形を成す“動的半剛性屋根”とも呼べる構造である。さらに、緑茶、コーヒー、パスタ、白菜、枝豆、カカオ、柑橘、といった食品残渣からつくる“ベジタブルコンクリート”を用いた大屋根は、香りを放ち身体感覚を呼び起こす。集まる人々を包み、暇のふるまいの発露する大屋根は、多様なアートを体験するギャラリーとして立ち上がる。

設計：teco  
 構造設計：オーノJAPAN  
 設備設計：ZO設計室  
 ベジタブルコンクリート制作：fabula  
 施工：藤井工業  
 構造：鉄骨造 地上1階建て  
 延床面積：658.78㎡

## シリーズ 大阪・関西万博をめぐる

### ポップアップステージ北

大きな循環 / 大きな風景の中に位置づける



森から運ばれてきた大量の木材が宙に浮かび、ぼんやりと広場を囲う。

この大きく空気をはらんだ森のような空間は、万博のための一時的なランドスケープとなって、地形をつくり、人々が集まる拠り所となる。人工島の上に半年間の間に世界中から人が集まり、会期が終わると元の場所にかえっていく。この壮大で貴重な機会に応答するような、儂くも、力強く、象徴的な、地球と人のための居場所をつくりたいと考えた。通常、森林で伐採された丸太は工場まで輸送され、乾燥・製材された後、規格化された建材として流し、どこかで建物の一部となる。今回の計画では、森林で伐採された未乾燥の丸太材をそのまま利用して建築をつくり、会期中に乾燥期間を設け、会期後解体して製材し、建材を再販ルートにのせることができないかと考えた。木材の流通ルートの途中に、会期6ヶ月の万博を挿入するのである。未乾燥の丸太材は、含水率が高いため重く、乾燥の過程で収縮し、強度が変化する。また、丸太は製材と違いひとつひとつ形状が異なるため、個体差に対応できる構造が適している。これらの課題に対応するため、丸太材が立体的に浮かんだテンセグリティ構造を採用した。これにより、丸太は外気に触れて乾燥が進み、乾燥による材の収縮はワイヤーの長さを調整することで追従させることができる。ワイヤーを接合するための加工も丸太端部だけで済むため、解体後に最小限端部だけ切り落とせば、含水率が下がった丸太材が出来上がる。



設計	計：axonometric		
構造	造：GraphStudio		
設備	備：CHCシステム	構造	造：(ステージ) アルミニウム合金
照明	明：Yu light		(広場) 吊構造
パラメトリックデザイン	：大里 健		地上1階
施工	工：篠原商店	延床面積	：103.77㎡

### サテライトスタジオ東

と  
時木の積層  
層



©ToLoLo studio

様々な人間の都合で不要となった「困った木」を日本全国から収集し、柱に用いたサテライトスタジオ東には、テレビ局の放送スタジオが3つ入っている。いろいろな種類の木が縦に積み重ねられ、円盤状の屋根を支える。

プロポーザル提案時から案は変わらず、実施設計期間から約1年かけて困った木を集めた。普段は製品化された木を扱うため、建材としての木という認識が根付いていた。紆余曲折を経て建築の世界に入った私達は、建築を考えながらその外側から見て、また中に入り、行ったり来たりを繰り返して思考している節がある。しかしながら建材素材ではなぜか決まったものから選ぶクセと言うか、コストやルールからそうになってしまう現状があり、それに疑うこともなくなっていたように感じる。すっかり建築の内側でしか考えられないようになってしまっていた、と言っても過言ではないかもしれない。

しかし木の取得では建材になる前の木や身近にある木の意味に触れた。木をきっかけに、その裏側にある社会問題や環境・産業問題、また良い面としての木から学ぶ活動に気付かされた。建築の外側に足を踏み出し、視野が広がったような感覚がある。

壁材には「苦編み」という技法で編んだ稲わらを取り付けた。外壁に求められるのは耐久性である。しかし苦は1年で更新されるような材料で、現代の材料とは真逆の特徴を持つ。半年という会期だからこそたどり着いた材料だ。また茅葺きの葺は取得が簡単にはできないが、稲わらは日本全国各地からでも毎年手に入るお手軽材料である。苦を今後も外壁として提案し続けるわけではないが、素材の寿命やサイクル、入手といった経路についても考えを改めるきっかけとなった。

誰もが関わりやすい素朴なものをきっかけに、積み柱という木造の新しい工法の再編にアプローチすると同時に、自身と関係があるかもしれない背景にある社会課題を認識できるようにする試みである。「困った木」を集めたその先にぼんやりと見えてくる未来について意識を向けることができるだろうか。見えなかった課題に出会うことで未来は明るくなると感じている。

設計	計：ナノメートルアーキテクチャー		
構造設計	計：EQSD		
設備設計	計：明和技術管理事務所		
木材調達協力	：SHARE WOODS	構造	造：木造 地上1階
施工	工：宮崎工務店	延床面積	：252.30㎡

# シリーズ 大阪・関西万博をめぐる サテライトスタジオ西

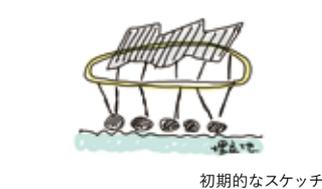
# トイレ1



今、この世界において全体を決め切ってしまうことはとても難しいと感じている。一方で建築は常に何かを決めていかなければいけない仕事だけれども、どうにか未来の選択肢を残しつつ、展開を探り続けたいとも考える。そして、定まらない未来に向けて、目の前の手の届く所から着実に進んでいくことが、とても倫理的に感じられる。

万博では蜃気楼のようにテンポラリーな仮設性から考える。会場全体が埋立地という、大地自体もまた仮設的で曖昧な場所において、基礎を含めた建築の各部材を移動・移築可能な形で計画する。難破船から必死に物資を運び出すロビンソンクルーソーのイカダのように、建築の基礎は木の丸太で作る。

東北の福島県で木を切って部材を作り、施工者設計者が共に一旅団となって大阪の会場へと運び込む。会期後はまた福島に持って帰り、どこかに移築する予定である。そして移設後の姿は当然変わるだろう。移動の経験と輪郭が、これから先を見据えるための確かな感触となるだろうと考え、準備を進めている。



2025年の大阪・関西万博の会場となる夢洲は、1977年から埋立地として開発されました。その後、バブル経済の崩壊によって開発が停滞すると、この土地には絶滅危惧種を含む植物や鳥類が棲みつき、独自の生態系が形成されました。しかし、万博や統合型リゾート（IR）の開発によって、かつての生態系は失われ、更地へと戻されました。

私たちは、この夢洲の歴史を踏まえ、万博期間中に人が立ち入ることのできない庭を設計しました。庭は、かつて存在した生態系をアーカイブし、来場者がその記憶に触れる場となります。この庭の特徴として、来場者が直接その中に入ることができず、眺めることを通じて、庭を体験できます。庭に面して13室のトイレが設置され、それぞれに入口と出口が設けられています。利用者は入口から入り、トイレを使用し、サインに導かれて出口をくぐると、目の前にはかつてこの地に存在した夢洲の自然が広がります。

煌びやかな万博会場内の喧騒の中で、この「夢洲の庭」へと導かれ、生態系の記憶と向き合い、私たちはあったかもしれない、今に思いを馳せることができます。

設計：佐藤研吾 佐藤研吾建築設計事務所  
/ 一般社団法人コロガロウ

構造設計：円酒構造設計  
設備設計：テーテンス事務所  
施工：おおほり建設  
構造：木造 地上1階建て  
延床面積：144.08㎡

設計：GROUP  
ランドスケープデザイン：GROUP + Alternative Machine  
施工：越智工務店  
構造：鉄骨造1階建  
延床面積：80.95㎡

# シリーズ 大阪・関西万博をめぐる

## トイレ2 地球の形跡



「大坂城石垣建設のために切り出された残念石と呼ばれる石を、400年の時を経て大阪へ運び建築をつくる」という試みを行っている。一見すると誰の利益にもならない“巨石を運ぶ”という行為に、なぜか人々は魅了され、集まり、議論を巻き起こし、そして石を運び建築をつくることができた。この行為は、あらゆることに意味が求められる現代において、祭りのように本来の人間の姿を体現する試みでもある。建築を設計するうえで、自然が持つ本来の質を尊重し、それぞれの石がどうあるべきかを五感で感じ、見極めることから始まる。自然物を起点とする設計は、人の手を離れ、石の表情がその在り方を決定づける。石の本来の姿を尊重しながら、石単体としてではなく建築として統合し、空間の中で人間の居場所を生み出す。また、スキャンやNC加工などのデジタル技術を活用することで、石を傷つけることなく、建築が自然に合わせる形で立てた石の上に屋根が乗り、空間を生み出す。これは単なる効率化のためではなく、非合理的なものや人間性を取り戻す手段としてデジタル技術を用いる試みでもある。この人の力を超えた自然と時間が息づく建築は、我々人間の根源的な感覚を呼び覚まし、建築の本質を問い直す場となるはずである。

※石は大きな基礎という考え方で石場建工法と同様の考え方をういた。石は軸力を受け、水平力は安全上の観点からトイレベース(鉄骨造)部分と大屋根の梁を一部緊結している

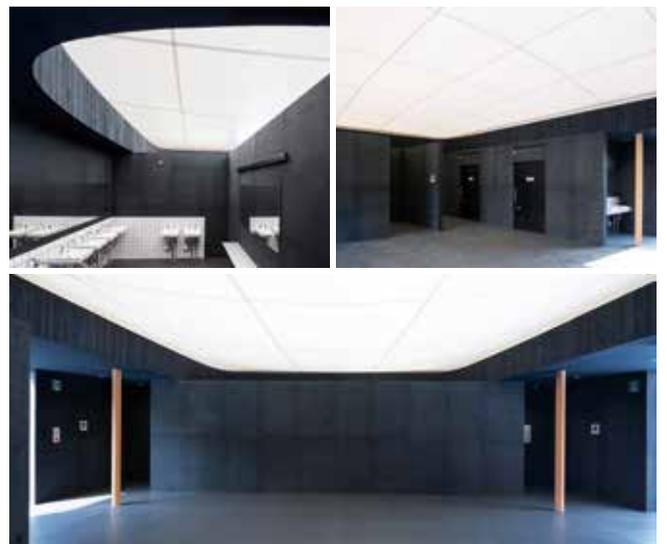
設計：studio mlkke 一級建築士事務所  
+ Studio on\_site  
+ Yurica Design and Architecture  
構造監修：陶器浩一  
構造設計：安生 仁  
設備設計：ZO設計室  
照明計画：ムラヤマデザインラボ  
デジタルデザイン監修：新工芸舎  
施工：シライテック 株式会社  
構造：鉄骨造 一部 木造 地上1階  
延床面積：60.54㎡

## トイレ3 レスポンス・ストラクチャー



万博会場のトイレを設計することは、群衆と目眩くような建築群のただなかであって一人になる静謐な場所を考えることである一方で、その建築自体を通じて過去からこの先への技術の展開を探ることもである、というところから設計を始めました。

一人になるための場所を風、気温、天気といった環境を感じられる場所とし、そのために空気を使って架構する技術、空気膜構造を採用しました。微風にゆらぎ、風が強くなればふくらむことで風圧に抵抗し、気温が高い時は内圧とつり合うように上に水をためた後に加圧して押し流すといった環境に応答する屋根を計画しています。同時にそれは1970年の大阪万博で試行された第一世代の空気膜構造への応答にもなるだろうと考えています。



意匠設計：小俣裕亮 / new building office  
構造設計：三崎洋輔 / EQSD  
設備設計：環境エンジニアリング  
膜屋根設計・施工：太陽工業  
施工：日本土木建設  
構造：木造一部空気膜構造 地上1階建  
延床面積：249.97㎡

# シリーズ 大阪・関西万博をめぐる

## トイレ5

複雑で変化の速い社会から生まれる柔軟で多彩な建築



建築をもっと軽やかで気軽なものとして捉えられないだろうか。ふわふわと浮かび移ろい変わる雲のように、積んで崩して思いのままに組み替えられる積み木のように。複雑で変化の速い現代社会にあって、その時々状況に柔軟に呼应し、関係性をデザインする。様々な物語がクロスオーバーすることで生まれる多義的な建築をつくれなかと考えている。2025年日本国際博覧会における重要なキーワードである「いのち(生命)」を建築のコンセプトの根幹に据え、1970年に開催された大阪万博にて花開き終焉を迎えたと言われている、建築の「生命性」について思考した建築思想「メタポリズム」を、55年の時を経てアップデートし再びこの大阪の地にリバイバルさせる。積み木のようにユニットを積み重ねることで建築を構築する仕組みにより、閉会後はユニット単位に解体し、公園や広場などに移設し、その場に必要数や形に組み換えることができる計画である。また、カラフルなユニットを緩く連帯させながら共存させることで、会場デザインコンセプトである「多様でありながら、ひとつ」をデザインする。

設計：米澤隆建築設計事務所  
構造設計：藤尾建築構造設計事務所  
設備設計：ZO設計室  
施工：西村工務店  
構造：鉄骨造1階建て  
延床面積：246.04㎡

## トイレ6

ひとつの水



トイレを、水をテーマとしたパビリオンと見なした。空から雨水が落ちて、蒸発し、雲となり、また雨になる。あるいは、溜まった雨水を人が利用して排水管へと吸い込まれていく。水が循環するそのプロセスの中に、水と人の多様な出会いをつくる。トイレという水が必要不可欠な建物の中で、すべての生命の根源である水にまつわる現象を可視化し、その循環の場面を人々が体感する。すべての人間を「ひとつの水の中にいる魚」と喩え、トイレ内部の大半を、性別も世代も垣根のないオールジェンダートイレとした。建物に入ってから出口まで、ひと目で全てを見渡せる死角のない大きな空間で、誰でも等しくトイレを利用できる。一方通行の動線を進んで、出口へ向かうと、トイレの排水に使われる雨水が貯まる水庭が見える。丘のような屋根上をすこし登ると、静けさの森を展望できる。視線は自然と水の流れる方向を向き、その先には水によって生かされている森の風景が広がる。



設計：KUMA&ELSA  
構造設計：井上健一構造設計事務所  
設備設計：都設備設計事務所、裕健環境設計  
温熱環境設計：Société Coopérative 2401 (スイス)  
グラフィックデザイン：Ang Studio (スペイン)  
施工：東建設  
構造：木造 地上1階  
延床面積：288.98㎡

## トイレ7

島の蜃気楼



©JUMPEI SUZUKI

象徴的な建築群に囲まれた広場という敷地に対して、背景化するように周囲の現象のみを浮かび上がらせる明確なかたちをもたない建築を構想した。平面形状は蜘蛛の巣状に広がり、鉄骨の躯体には、円周方向への変化に応じて可変的に追従できる3Dプリント製のポリカーボネートパネルが取り付けられている。いかにも3Dプリント的な完結した壺のような形状は避け、あくまで従来の建築手法の延長上に位置付けられるデザインを模索した。その結果、複雑な形状や寸法の変化に対応できる3Dプリントの特性を生かし、パネル工法を採用した。反射性と透過性をあわせ持つ湾曲したパネルは、周囲の光を複雑にとらえ、周辺環境との関係によってその存在が浮かび上がる。会期中に現れ、その後はまた別の場所へ循環していく、刹那的な光を纏う建築は、島に浮かぶ蜃気楼のようである。

意匠設計・監理：PONDEDGE + farm

構造設計：オーノJAPAN

設備設計：ZO設計室

3DP設計協力・製造：VOID + ND3M

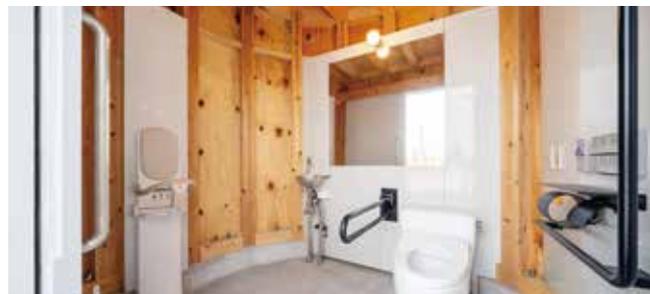
施工：セットアップ

構造：鉄骨造 平屋

延床面積：100.81㎡

## トイレ8

万博公衆トイレのあたらしい「かた」



われわれは現代の万国博覧会におけるトイレの新しい「かた(典型)」を提案したい。万博には人々が世界各国から集まり、「ここ」と「からだ」の性も千差万別である。とはいえ、オールジェンダートイレのみで構成すれば全てを解決出来るかというところでもなく、いまこの時代を鑑みた新しい「かた」としてのトイレを作る必要があると考えた。設計過程で日本博覧会協会と開催した「ユニバーサルデザイン・ワークショップ」において、視覚、聴覚、車椅子利用などの身体的な障がいを抱えた当事者の方々とトイレの原寸大のモックアップを用いて使い勝手を検証し、そこで得た知見を設計に反映した。結果として、男子トイレエリア、女子トイレエリアの他に、3箇所のオールジェンダートイレエリアを設け、様々な国籍や宗教に配慮したゾーニングを行った。群としての棟が集まることによって、個性ある異なるもの同士の総体が、バラバラでありながらもひとつながりの群として一体感のある風景をつくり出している。



設計 齋藤信吾・根本友樹・田代夢々 | 合同会社齋藤信吾建築設計事務所 + Ateliers Mumu Tashiro

構造設計：朝光構造設計

設備設計 大瀧設備事務所、TH PLAN

施工：藤井工業

構造：木造一部鉄骨造 地上1階

延床面積：56.19㎡

第67回

# 建築士会全国大会

# おおさか 大会

Architecture to Social Design

67th Japan Federation of Architects and Building  
Engineers Associations OSAKA Conventions

建築から  
ソシアルデザイン

# 2025.9.19

グランキューブ大阪

530-0005 大阪府大阪市北区中之島5丁目3-51

- 主催：公益社団法人日本建築士会連合会
- 共催：近畿建築士会協議会
- 主管：公益社団法人大阪府建築士会

## 地域まちづくり委員会 堺・高石の紹介

地域まちづくり委員会 堺・高石地域 副代表幹事 桑原宏明

### ●「堺・高石」とは

「堺・高石」は平成13年に設立されました。現在、堺・高石に在住または勤務される20名を超える方が参加されています。参加メンバーは行政、設計事務所、工務店、まちづくりコンサルタント及び不動産関係者等、の職能は多岐にわたります。

### ●「建築士の会 堺・高石」の活動

#### 「我がまち再認識」

堺の名の由来は「摂津」・「和泉」・「河内」の3つの国境にあることに由来します。地理的な特徴として大阪の中でも3つの文化が交差する魅力ある街として成長してきました。みなさまご存じの世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」をはじめ旧堺の環濠都市内の歴史的価値のある建物、日本最大規模の泉北ニュータウン、堺から高石に続く臨海部工業地域と府内有数の農産地等と様々な表情をもつ「まち」です。多様な「まち」であると同時に歴史ある祭りや魅力的なまちづくり活動など見どころがたくさんあります。「我がまち再認識」をテーマに身近にある地域の魅力を「建物」や関わる「人」に焦点を当てた見学会を企画しています。最近の見学会のいくつかを紹介いたします。

#### ◇「高林家住宅見学会」

「高林家住宅」は江戸中期に建てられた地域の庄屋であり、主屋と表門が重要文化財に指定されています。見学会では当主から建物や江戸時代から続く、住まいのしきたりなど歴史、文化についてお話を伺うことができました。



主屋を背景に当主との集合写真

#### ◇「ため池+原池公園BBQ」

泉州地区には米作のための「ため池」が多数存在しましたが、近年の都市化に伴い用水としての役割を終え、宅地などに姿を変えています。そのいくつかは公園整備と合わせた地域の水景として新しい役割をもつようになりました。身近な原風景を堪能し、市民の広場として再生された施設で懇親の時間を楽しみました。



BBQ施設でのひととき

#### ◇「堺総合防災センター体験会」

「堺総合防災センター」は令和4年にオープンした防災体験型学習施設です。近い将来発生するとされている「南海トラフ大地震」だけでなく身近にある「豪雨、台風による災害」への「備え」を学ぶ施設と地域の防災中核拠点として整備されました。当日は、火災への対応や水難事故への対応などを体験する貴重な機会となりました。



水難事故での救助訓練の様子

#### ◇「まちなかのキャンパス・ビオトープ」

大学キャンパス見学と身近な生き物発見」大阪公立大学と連携し、「おとなの夏休み」をコンセプトにお子様とその家族と一緒にキャンパス内にあるビオトープの見学と生き物を観察する企画を行いました。昨今まちなかで

失われている生態系がキャンパス内にはたくさん残っていました。見つけた生き物を大学の先生に解説いただきました。童心にもどるわくわくする企画は日ごろ接する時間の少ない子供たちとの楽しい時間になりました。



ビオトープ池の生き物観察風景

#### 「勉強会・情報交換会」

「堺・高石」には行政の方も多数参加されています。地域行政の取り組みや私たちにとって身近な建築関連法規の勉強会や情報交換を行っています。実務ではなかなか聞きにくい法律の背景や解釈など有意義な情報や知識を得る貴重な機会です。

#### ◇「建築基準法改正の勉強会」

メンバーでもある堺市職員の方に、この4月に改正された建築基準法の勉強会を改正前に講義をしていただきました。法律が改正する前に知識として準備しておくことなど大変有意義な勉強会となりました。



勉強会の風景

これらの企画は、私たちの活動の一部です。「建築士の会 堺・高石」は、身近にいる相談しやすい仲間の集まりです。業務をはじめ情報交換できる環境はとても大切だと思いませんか。より多くの方に参加いただくことで活動の幅や情報量も増えていきます。これからも魅力ある企画を進めています。ぜひご参加ください。高石の方が特に少ないのでお待ちしております。

## 地域まちづくり委員会 いずみ野の紹介

地域まちづくり委員会 いずみ野地域 代表幹事 石上芳弘



また二つの社寺では、関西らしい笑いの交えた講話を頂くことができました。



○正木美術館・正木記念邸見学会  
正木美術館のご協力を得て、学芸員さんの説明を受けながら案内して頂きました。小さな美術館ですが、貴重な美術品をゆっくりと観覧することができました。また、美術館の隣にある国の有形文化財でもある創設者・正木孝之氏の自邸を見学しました。自邸の和室で美しい庭園を見ながら呈茶を頂いて無事に終えることができました。

### ■いずみ野って？

地域まちづくり委員会の地域サークルの一つで、大阪府を12地域に区分し、その地域区分組織の一つが「建築士の会 いずみ野」です。地域サークルの活動を通じて、自己研鑽や建築士としての地域貢献など、様々な取り組みを通じて、同じ泉州地域で建築士として活躍している仲間たちとの交流を深めています。

ンバーで知恵を出し合って企画・運営しています。そのために、主にオンラインで月1回1時間程度の幹事会を行なっています。また、メンバー同士の親睦を目的として納涼会や忘年会、新年会を開催しています。いずみ野は、各世代がバランスよく活躍しているので、活動にご興味がありましたら、まずはイベントから気軽にご参加頂ければ幸いです。

### ■Since 1988

「建築士の会 いずみ野」は、とても歴史ある地域サークルです。そして、泉大津市・和泉市・忠岡町・岸和田市・貝塚市・熊取町・泉佐野市・田尻町・泉南市・阪南市・岬町と7市4町に勤務されているか、お住まいの方をメンバーとしています。建築士の集まりとして、一般の方に向けて、また建築士同士の学習・研鑽のために、年に2～3回の地域イベントをメ



### ■地域イベント

令和6年6月1日(土)に「忠岡町まちあるきと正木美術館・正木記念邸見学会」を行いました。いずみ野の長い歴史の中で、念願の忠岡町イベントで、やっと全てのいずみ野地域で開催を行うことができました。

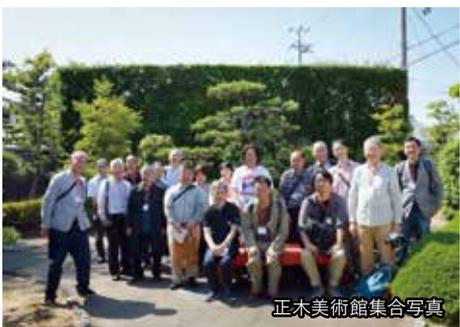
#### ○忠岡町まちあるき

当日は、とても天気の良い1日でした。イベントは忠岡町役場のご協力で、普段知らない忠岡町の社寺や街並みを見学でき新鮮でした。



### ■たった500円でセミナー!

令和7年2月7日(金)に「ぎりぎり間に合う改正基準法・建築物省エネ法学習懇談会」のワンコインセミナーを開催しました。いずみ野には若い建築士も多く活動しているので、2025年の建築基準法改正が目前に迫るなか、実際に審査を行う民間機関の担当者に協力を仰ぎ、具体的な変更点や改正による影響を詳しく解説して頂きました。実務に伴う懇談会で、参加者同士や講師との意見交換を活発に深めることができました。  
□興味がある方は、ぜひイベントに参加してみることをおすすめします!



正木美術館集合写真

# 動静レポート

## 会長動静

- 3/26 近畿会長会議、近畿建築士会協議会
- 3/27 命を守るひと部屋断熱・耐震 WG
- 3/28 おおさか大会会場視察
- 3/31 荒井弁護士面談
- 4/3 修成建設専門学校入学式
- 4/7 関西建設人ゴルフ大会
- 4/10 大阪府収用委員会、本会活動報告会
- 4/11 正副会長会議、運営会議
- 4/14 大阪弁護士会正副会長面談
- 4/16 理事会
- 4/22 園遊会
- 4/23 健康・省エネ住宅国民会議・上原理事長面談
- 4/25 東大阪市固定資産評価審議会

## 4月度 理事会報告

日時 4月16日(水) 16:00～18:00  
場所 本会東会議室  
出席 理事 43/46名 監事 2/2名  
名誉会長他7名、役員候補者7名

### 【審議・承認事項】

#### (1) 入退会の承認

(人)	3月	入会	退会
正会員	2,099	9	83
準会員	27	0	1
特準会員	21	0	0
賛助会員	149	1	0
計	2,296	10	84

#### (2) 令和6年度収支決算について

当期経常増減額は3,155,023円となり、令和6年度の正味財産合計は69,134,423円であることを報告し承認されました。

経常収益では建築物耐震診断等や正会員費が減少したものの、建築行政受託や応急危険度判定の増収が主な要因となり、約310万円の当期増収となりました。

#### (監事報告)

令和6年度は約310万円の黒字でしたが、令和5年度は寄附金を除くと約600万の黒字でした。この差は会費収入の減少が主な要因であるため、今後も会員増への取り組みと緊縮財政の継続が必要であることを報告しました。

#### (公益法人の運営条件)

①経常費用の合計額143,636,868円に対して、公益目的事業小計124,465,731円が1/2以上を占めること。

②当期経常増減額の公1・公2・公3ならびに公益目的事業小計が全てマイナスであること。

③公益目的事業小計の当期一般正味財産増減額がマイナスであること。

以上3点すべてを満たしていることを報告しました。

なお、令和6年度の公益目的事業比率は86.7%で、公益法人の条件である50%を大きく上回り、公益社団法人へ移行後の12年間の平均も86.2%と高い公益性を維持しています。

#### (3) 外部理事・外部監事の設置

公益認定法の改正に伴い、令和7年度に外部監事1名、令和8年度に外部理事1名を設置するための定款の変更案や、報酬に関する規程の変更案、ならびに井上会計事務所の井上智英子氏を外部監事候補者とすることを承認しました。

### 【報告等】

(4) 大阪地域貢献活動事業助成の申請取り下げ

十八条村・蒲田村郷土史研究会より、「(仮称) 渡邊歴史公園に渡邊邸の記憶を遺すプロジェクト1周年活動」について、地元組織による事業との重複が判明したことから、助成の申請を取り下げるとの連絡があり、これを了承したことを報告しました。

#### (5) おおさか大会の進捗状況

令和7年度からの新旧理事交代に伴う新たな運営組織図案や大会宣言案、大交流会の次第案について報告しました。

(6) 定款第21条4項に基づく事業執行の報告を行いました。

#### (7) その他

①本年1月から開設している建築士サポートセンターについて、現在までの対応実績と、センター事務局である日本建築防災協会との令和7年度の契約継続について報告しました。

②日本建築士会連合会に令和7年度「建築士の日」記念事業として、下記2事業の申請を行ったことを報告しました。

・「危ない我が家!～安心・安全・安らぎの家とは～」(青年・女性委員会)

・上方文化を詠みとくシリーズ第4弾「狂言」(シニアサロン)

## 釜山広域市建築士会 定時総会

1986年より交流協定を結んでいる釜山広域市建築士会の定時総会が3月24日(月)に釜山広域市庁舎内で開催され、本会からは岡本会長、河野理事、森田特任相談役が出席し、お祝いを申し上げます。



## 大阪弁護士会の森本 宏会長及び副会長が 就任挨拶のため来会

大阪弁護士会の森本 宏会長、大江千佳・山田敬子の両副会長が役員就任挨拶のため4月14日に来会され、本会の岡本会長、上田・徳岡の両副会長がお迎えいたしました。紛争・訴訟に係る協働や、本年度で第10回をむかえる共催セミナーの開催等を確認しました。



弁護士会役員の皆様と本会役員

## 今さら聞けないシリーズ（設備の維持管理編） 昇降機のメンテナンス・実機 見学講習会

日程：令和7年3月10日（月）

会場：クマリフト株式会社 R&Dセンター及びテクニカルセンター

参加者：19名



相原康隆（賛助会員委員会 委員長）

建築設備として設計、施工している昇降機（エレベーター・小荷物専用昇降機）ですが、竣工後のメンテナンスはどの様に行うのか、施主様にとって重要な情報です。

本企画は建築士として知っておきたいメンテナンスの種類、必要性、法規等を学ぶ講習会です。

エレベーター等の昇降機は定期検査が義務付けられており、一般的には昇降機等検査員資格者証を持つ技術者が行います。



あまり知られてませんが、法的には建築士も点検業務が可能です。もちろん、点検項目や方法を知らずの実施は危険ですので指定の講習を受講する事をお勧めしますが、建築士は建築に関するスペシャリストとして、これらの知識もあるとされています。

建築士が設計、施工に携わり引渡し後の維持管理責任は施主様（建物所有者等）にあります。建築物のライフサイクルとして維持管理の知識は重要です。昇降機の維持管理がどの様に行われ、どのような仕組みであるのか、普段見ることがない世界を見学し受講する事により、維持管理も含めた広い知識を備えた建築士は施主様に高い信頼を得る事が出来ると思います。

今回、小荷物専用昇降機でトップシェアのクマリフト様のご協力でスケルトン昇降路により通常では見ることのできない部分も見学し更に進化小荷物専用昇降機のIoT連携など

の見学講習会を行いました。今回会員外の参加も多く、中には遠方からの参加者もおられ建築士としての知識向上意欲を強く感じるものとなりました。

賛助会員委員会では、建築士の実務の少し先の技術を学ぶ講習会等を企画したいと思っております。最後に講師の皆様、参加者の皆様に対して、この場を借りて心より御礼を申し上げます。



本会 岡本会長、クマリフト 熊谷社長 会談

## 建築相談室から（95） 2024年度の建築相談室

毎年5月は前年度の建築相談室の活動についてまとめています。ここでは概要をお伝えします。本報告の詳細な内容は、大阪府建築士会・建築相談室のホームページで6月頃からご覧いただける予定です。

### 全体の相談件数

2024年度（2024年4月1日から翌3月31日まで）の電話の建築相談総数は525件（一日平均2.3件）でした。コロナ禍後で相談が日常に戻った2022年度の528件よりも減少しています。2023年度の面接相談・現地相談のキャンセル数は面接相談申込みは18件中3件、現地相談申込みは27件中4件だったのに対し、2024年度のキャンセルは面接相談申込み17件中0件（実施17件）、現地相談申込み26件中9件（実施17件）となっています。面接相談は2023年度比微増ですが、現地相談の実施数は過去5年で最も少なく、キャンセル数は過去5年で最も多くなっています（図1）。

面接相談は担当者があらかじめわかっているため相談者とのマッチングがしやすい一方で、現地相談は相談者側都合のキャンセルもあるものの相談員側の担い手が不足していることがうかがえます。

### 相談者の属性

全体的に減少の傾向のある中で2024年に相談件数を大きく増やしているのが、戸建て（非所有）に関する相談（8件から17件）と非住宅建物（14件から25件）でした。従来ほとんどの相談が戸建て（所有）や分譲マンションになる中で目立って増えた相談です。相談者属性も今年大きく変わっています（図2）。相談者の多く（74%）は建築主（一般）ですが、建築士・設計監理者、施工者、不動産・デベロッパー業者からの相談が過去3年で最も多くなっています。相談の内容が多様化している一方で、相談件数の減少が一時的なものなのか、社会のニーズの変化によるものなのか、検証が必要です。

### 橋本頼幸（建築相談委員会幹事）

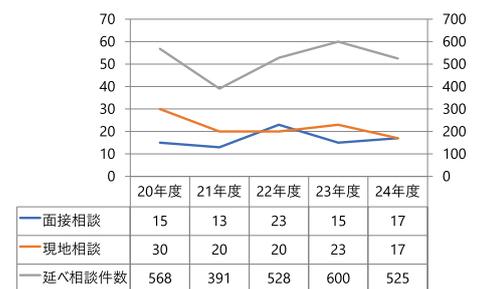


図1 相談件数の過去5年間の推移

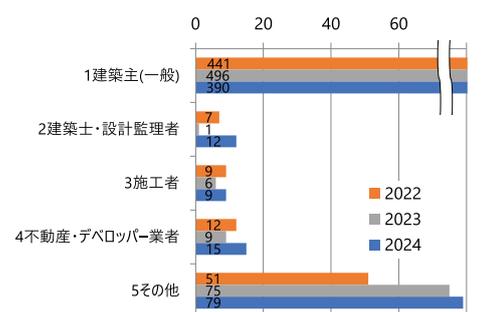


図2 相談者の属性

## 建築士会からのお知らせ

### 令和7年度定時総会に関する重要なお知らせ

- 令和7年度の定時総会は5月28日(水)に開催いたします。本会会員様には4月号に加え今月号にも出欠票(委任状付)を同封しておりますので、必ずご返信をお願いいたします。
- 総会では定款変更の議案があるため、総正会員の1/2以上のご出席(委任を含む)が必要となりますので、よろしくお願いたします。
- なお、総会議案書は定款変更をはじめとする議案の精査等のため、恐れ入りますが当日会場にてお渡しいたします。

### 令和7年度監理技術者講習

5/14、7/24、9/26 CPD6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、経験豊富なベテラン技術者の講師による解説と映像で、実務に役立つ情報を提供いたします。

日時 5/14(水)、7/24(木)、9/26(金)  
各8:55~17:00

会場 大阪府建築士会 東会議室

定員 各回30名(定員に達し次第締切)

受講料 WEB申込み9,500円

郵送申込み10,000円

申込 日本建築士会連合会HPより

<http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2015-07-28-2.html>

### 令和7年度 建築士定期講習

5/16、6/13、7/17、7/29、8/27、9/17、  
10/17、11/20、12/12、1/21、2/13、3/26

建築士法の規定により、建築士事務所に所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は令和4年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未

受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず年度内に受講してください。

#### ▼日程・会場・定員

5/16(金)	大阪府建築健保会館	70名
※6/13(金)	大阪府建築健保会館	80名
7/17(木)	(一社)大阪府建築士事務所協会 会議室	20名
※7/29(火)	(公社)大阪府建築士会 会議室	30名
※8/27(水)	大阪府建築健保会館	80名
9/17(水)	大阪府建築健保会館	70名
※10/17(金)	大阪府建築健保会館	80名
11/20(木)	大阪府建築健保会館	70名
※12/12(金)	大阪府建築健保会館	80名
1/21(水)	大阪府建築健保会館	70名
※2/13(金)	大阪府建築健保会館	80名
3/26(木)	大阪府建築健保会館	70名

上記すべてDVD講習です。

※の日程：大阪府建築士会が運営

※以外の日程：大阪府建築士事務所協会が運営(注)各回定員に達し次第、受付を終了します。

時間 9:15~17:00(各講習日共)

受講料 12,980円(消費税含。事前入金)

申込 建築技術教育普及センターHPより

### 地震災害に備える日本の防災対策

#### Disaster Prevention Measures against Great Earthquake

6/3

日時 6/3(火) 18:00~

会場 大阪府建築健保会館

講師 吉村英祐氏(大阪工業大学客員教授)

受講料 建築士会会員1,500円

一般3,500円

学生 500円

定員 80名

※香港理工大学の学生も参加

### 確認申請の構造図書作成講座

6/12 CPD4単位(予定)

今まで作成したことがなかった確認申請の構造図書。その作成の基本を知るだけであなたは確認申請の構造図書作成のマスターと呼ばれる。そんな講座がスタート!

訂正項目が少なく審査がしやすい構造図書が作成できれば建築着工も安心。

常に変化している確認申請の世界。改正された壁量計算基準や柱の小径などの、木造使用規定(在来軸組工法)の内容が解る。

日時 6/12(木)

13:00~17:00(受付12:30~)

受講料 建築士会会員6,000円

後援団体会員6,500円

一般7,000円

会場 大阪府建築健保会館

定員 70名

### 既存住宅状況調査技術者講習

新規講習7/9、10/22

更新講習9/25、11/7、2/25

CPD新規5単位、更新2単位

既存住宅状況調査は、登録機関の講習を修了した建築士のみ認められる業務です。ぜひ本講習で新たな業務の資格を取得してください。令和4年度に本講習を修了された方は本年度が有効期限となりますので、更新講習をご受講ください。

#### ▼新規講習(DVD)

日時 7/9(水)、10/22(水)

9:30~17:00

会場 大阪府建築士会 東会議室

定員 30名(定員に達し次第締切)

受講料 WEB申込21,450円

郵送申込22,000円

#### ▼更新講習(DVD)

日時 9/25(木)、11/7(金)、2/25(水)

13:30~17:00

会場 大阪府建築士会 東会議室

定員 30名(定員に達し次第締切)

受講料 WEB申込17,000円

郵送申込17,600円

#### ▼申込 日本建築士会連合会ホームページ

よりお申込みください。上記以外にオンライン講習も開催いたします。

<https://www.kenchikushikai.or.jp/koshukai/kizonjyutakujyokyocho.html>



Informationの詳細及び申込みは大阪府建築士会ホームページに掲載しています。  
<http://www.aba-osakafu.or.jp/> メール [info@aba-osakafu.or.jp](mailto:info@aba-osakafu.or.jp)  
 TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103

## 「上方文化を詠みとく」シリーズ 第4弾 「萬狂言を学ぶ」

5/8、6/29 CPD2単位(予定)

奈良時代に「猿楽」として中国より伝来し、室町時代に確立した「狂言」について重要無形文化財総合指定保持者であられる和泉流狂言師 小笠原由禰(おがさわら ただし)氏を御迎えし、日本の伝統芸能の原点とも言える狂言について御講義頂きます。

また、6月29日(日)には大概能楽堂にて、「萬狂言 大阪公演」を、鑑賞致します。

ご家族、お友達を含めて、是非共、ご参加下さい!

日時 5/8(木) 18:00～

会場 大阪府建築士会 東会議室

講師 和泉流狂言師 小笠原由禰氏

参加費 会員2,000円 一般3,000円

終了後、懇親会予定

定員 35名

## 岩谷産業神戸研修所 見学会+説明会 6/27 CPD3単位(予定)

水素エネルギー利活用の新たな発信拠点も兼ねた多様な人材育成の場となる研究所の見学会。

宿泊機能も兼ねた研究所で、上層部の宿泊エリアにはカーボンニュートラル施設を建築として体現するために構造体を一部木造としたハイブリッド構造を採用した。外周部を木造でインテリアとファザードの両方で木も表情・効果が感じられるようにしている。

日時 6/27(金)

13:30～16:45(集合 13:15～)

受講料 建築士会会員3,000円

後援団体会員4,000円

一般5,000円

会場 岩谷産業神戸研修所

定員 40名

## 全国女性建築士連絡協議会(山形) 山形から発信 みらいへつなぐ木への挑戦 ～雪・山・川がおりなす食文化と共に～ 7/19、7/20

日本建築士会連合会 女性委員会では、「山形から発信 みらいへつなぐ木への挑戦」～雪・山・川がおりなす食文化と共に～をテーマに、第34回全国女性建築士連絡協議会(山形)を山形会場とオンラインの両方で開催します。

基調講演では「木造建築の可能性」と題して、瀬野和弘氏、鍋野友哉氏にお話いただきます。被災地報告では、山形県北部豪雨災害、石川県能登半島地震・能登半島豪雨、兵庫県阪神淡路大震災から30年の報告と、福島県の活動報告を予定しています。

全国大会おおさか大会のPRも行いますので是非ご参加ください。

■7/19(土) 13:45～17:00

開会式・被災地報告・活動報告・基調講演  
大懇親会(18:00～)

■7/20(日) 9:00～12:00

分科会・全体会

エクスカッション(12:30～)

男女を問わずご参加いただけます。

会場 山形テルサ(山形市双葉町1-2-3)

参加費 会 員:会場参加3,000円

オンライン参加1,500円

会員外:現地参加4,000円

オンライン参加2,500円

学 生:無料

申込締切 5/30(金)

## 行政からのお知らせ

### 「第38回大阪市ハウジングデザイン賞」 の推薦を募集します!

大阪市では魅力ある良質な集合住宅(共同住宅・長屋・戸建住宅の集合)を表彰する「大阪市ハウジングデザイン賞」を実施しています。今年度も次のとおり募集を行い、推薦いただいた方の中から抽選で50名様に図書

カード(500円分)をプレゼントします。たくさんの方の推薦をお待ちしています。

応募締切 6/20(金)

対象 大阪市内の集合住宅「共同住宅」「長屋」「戸建住宅の集合」

①新築

令和2年4月1日以降に完成したものの

②既存建物の改造等

令和2年4月1日以降に優れたリフォームやリノベーション等をしたもの

③維持管理

平成17年3月31日までに完成し、良好な維持管理がなされているもの(築20年以上)

推薦方法 各区役所、大阪市サービスカウンター(梅田・難波・天王寺)、住まい情報センター4階住まい情報プラザ、市役所1階市民情報プラザ等に設置のリーフレット内推薦はがき、または、下記ホームページ(行政オンラインシステム)からご応募ください。

<https://www.city.osaka.lg.jp/toshiseibi/page/0000590707.html>



## その他のお知らせ

### 安藤忠雄展2025 ―青春― 3/20～7/21

本展は、建築家安藤忠雄の壮大な挑戦の軌跡から、現在、未来までを展望するものです。模型やドローイングといった貴重な設計資料から、ヴァーチャルの限界に挑む映像インスタレーションなど、多彩な展示物が散りばめられた会場を巡りながら、建築という文化の豊かさ、挑戦する人生の妙を知ることとなるでしょう。

日程 3/20(木)～7/21(月)

会場 グラングリーン大阪

うめきた公園 ノースパーク【VS.】

HP <https://vsvs.jp/>

## 品格湛えた街角ビルの魅力

天神ビル 一九六〇年

文・写真 松隈 洋「神奈川大学建築学学部教授」

二〇二五年三月下旬、福岡の建築を駆け足で観て回る機会があった。ほぼはじめてのことになる。私事ながら、二〇二四年の暮、積年の課題だった『未完の建築 前川國男論・戦後編』（みすず書房）を上梓することができた。それを機に、前川所縁の全国各地の街の書店でトークイベントが実現できたら、と勝手な願望を抱いていた。そんな中、幸いにも、二〇二〇年の創業で、独立系書店として名高いブックスキューブリックのトークイベントに招かれたの

だ。福岡には、前川晩年の代表作の福岡市美術館（一九七九年）がある。願ってもみない機会となった。この催しでは、『ローカルブックスストアである「福岡ブックスキューブリック」』（晶文社二〇一七年）の著者で創業者の大井実さんが司会を務め、同じく地元出身で幅広い設計活動が続けながら、著書の『街を知る…福岡・建築・アイデンティティ』（古小島舎二〇二三年）やNPOの活動を通して、福岡の建築文化を精力的に発信している建築家の

松岡恭子さんをゲストに、貴重で贅沢な対話の時間を持つことができた。

実は、事前に手にした松岡さんの著書に掲載されていた福岡の建築で、その端正な外観に惹かれてまず訪れたのが天神ビルである。地上十一階、地下三階、延床面積約三万三千㎡、軒高四二mのオフィスビルで、一九六〇年に竣工している。当時は、建物の高さは軒高三二m以下に制限されていた。けれども、残された資料によれば、都市計画の手法である特定街区制度の採用により、この規模で実現する。一階足元の外周にアーケード状のピロティが設けられたのも、この制度によるものだという。そこには、市内最古のビルとして戦災を乗り越えて市民に親しまれてきた九州電灯鉄道本社屋の旧・天神ビル（一九一七年）の歴史を踏まえ、この街の新たなシンボルとなることを目指した、高度経済成長初発時の期待が託されていたのだろう。



明治通り北東側の全景、右隣は福岡銀行本店



福岡銀行本店の広場から見た西側外観

それにしても、今見ても新鮮な、抑制の効いた気品漂う外観は、どのような理念と設計方法から生み出されたのだろうか。そのことは、設計を担当した竹中工務店九州支店設計部長だった岩本博行（一九二二〜一九九一年）が、代表作となる御堂ビルの竣工した一九六五年に記した、長文の論考「現代建築論」（『近代建築』一九六五年十二月号）から、明晰な形で読み取ることが出来る。

岩本は、「近代建築に様式はない。（…）百軒ビルが建てば、百軒とも違ってくる。違わなければ気がすまない」という考え方はどこからきたのであろうか」と問いかけた上で、「新しい様式は、どうすれば生れるだろうか。この課題が、現代の最も大きな課題である。様式は社会的でなければならない。社会の心と機能を満たすものでなければならない」として、

次のような持論を展開していく。

「日本の建築家が、日本の心と、現代の機能に目を向けるなら、ある共感の範囲を知ることが出来るかもしれない。それをモーメントとして探究するなら、現代共通の型を発見することが出来るかもしれない。」

さらに、岩本は、日本の建築の特徴について記していく。

「日本の建築の色は、灰色と、茶色と、少しばかりの白である。灰色は瓦、茶は木、白は漆喰である。古い日本はそれだけで埋まっていた。（…）伊勢神宮は、木だけで出来ている。日本の名建築を見れば、その材料の少ないのに驚く。広大な姫路城も、石と漆喰と瓦だけで、その表情を見せる。パルテノン石だけの建築である。西洋の多くの名建築も、石だけの建築である。」

洋の東西を問わず、名建築を構成する材料は少ない。色も少ない。即ち、要素が少ないのである。（…）建築を一つの要素にしぼりあげて解決するところに、建築の妙がある。古典が、それを教えている。

現代建築は、この教えを無視している。無視しているところに混乱がある。その混乱が、都市にまで拡がっている。」

このような歴史理解と問題意識をもって、設計に取り組んだのだ。さらに、現代のビルが抱える設計上のジレンマについても指摘していく。

「現代のビルの建物は、土地利用と、その経済的理由から、彫りの深い建築が出来ない。さきお、マッチ箱のように四

角四面になる。デザインが表面的に終る。コンクリート面から仕上面まで、せいぜい四五mmぐらいのところまでが、デザインのクリアランスである。（…）この薄っぺらなクリアランスでデザインしなればならない現代建築家も不運である。」

このような難しい与条件の下で、岩本は、日本古来の焼物に着目し、その現代的な利点と特質を、次のように書き留める。

「陶磁器は、土に釉薬を塗って焼く。火の力が、この薄い膜のような釉薬から、深い色を生み出す。優れた焼物は、無限の深みを漂わす。このクリアランスから生む力を利用しなければならぬ。タイトルは、その表情を見せてくれる。表面的なデザインから、深みを生み出す手段である。（…）日本の色は少ない。くすんだ日本の色を深く漂わす近代材料を期待したい。今、タイトルがそれに答えてくれる。」

こうして、天神ビルに実現した外観、デザインの秘密が解き明かされる。すなわち、外壁の素材を茶褐色の風合いのある有田焼窯変タイルひとつに絞り、そこに、四隅を丸くしたシャープなステンレス・サッシュをタイル面からわずかに浮かせて取り付ける。さらに、一階アーケードの柱は白色の御影石を貼り、頂部のパラペットを打放しコンクリートとすることによって、外観に陰影とメリハリを持たせたのである。

この建築で岩本が示した理念と方法は、現代が見失った大切な何かを教える。周囲では天神ビッグバンと呼ばれる大規模な再開発が進む中、その存在は、凛々しく高潔で魅力的な雰囲気を持ち続けている。



## 【oiya (オイヤ)】

野水瓦産業株式会社  
御原特殊瓦株式会社  
株式会社タツミ

<https://www.oiya.jp/>

取材：橋本頼幸／建築情報部門委員



## 淡路瓦イズム



野水瓦産業（株）・御原特殊瓦（株）・（株）タツミの淡路島窯元3社のプロジェクトが立ち上がった。土と共生するために。

淡路島出身の著名プロダクトデザイナーである倉本仁氏とコラボレートして『oiya』プロジェクトがスタートした。

2021年夏、コロナ禍で発表会の開催が難しいなか、東京西麻布のカリモク・コモンズ東京で『oiya』の作品発表会を開催。

土は太古からの記憶を積層している。その土に新たな形と役割を与えること。それが『oiya』の目指すところ。

瓦製造技術は約400年前に淡路島に伝えられたと言われている。良質な粘土と海上交通、京都・奈良・大阪での瓦需要などの地理的条件が重なり、淡路瓦は日本三大産地のひとつとして発展してきた。しかし、現代の都市や生活空間には土を感じることは少なくなった。土の素朴さ、力強さ、柔らかさ、土が持つちからを改めて感じてもらいたい。淡路瓦にかかわる人たちはそれを強調する。

屋根材としての瓦の販売量は激減した。瓦事業にかかわる会社や人々も最盛期の1/4まで減っている。瓦が現代建築で使われなくなったことに、後継者不足も追い打ちをかける。

現代建築において使われるタイルは国内で製造するところは少ないという。瓦は小ロットから、かつお客さんのニーズに合わせたものも作れる。タイルでできないことをできるのが瓦の良さ。野水専務はそう強調する。

『oiya』プロジェクトの3社は、それぞれ特徴を持つ。（株）タツミは鬼瓦や飾り瓦などを作る職人「鬼師（鬼瓦職人）」が一つ一つ手作り製作を得意とする。御原特殊瓦（株）は土を知り尽くし、特殊な瓦の成形・焼成を得意とする。野水瓦産業（株）は手仕事から最新技術を駆使した多種多様な瓦を製造する。この3社が集まったからできたプロジェクトである。

語源は、北欧で『島』を意味する「øy」に由来。出来あがった製品そのものだけでなく、島の産土（うぶすな）を意識し、次の時代に残す新しい「もの」づくり。

『oiya』の製品は、外壁材と家具の約20種類。野水専務はこれまでいくつか納入実績ができて、徐々に広がってきている実感を感じている。しかし、家具は一つ一つ手作りで大量生産にむかない。海外進出も視野に入れてホームページは英語と日本語の併記している。アジアのみならず、ヨーロッパ、アメリカにも出荷を考えるが、輸送に時間を要する。様々な困難にぶつかりながらも、土の良さを前面に出した商品の開発を続ける。瓦のデザイン性の高さを店舗内装などにも使ってもらいたい。

長年培われた伝統と時代に合わせて挑戦する心意気が新しい化学反応を起こすだろう。

### ■淡路瓦のお問い合わせ先

淡路瓦工業組合

兵庫県南あわじ市湊 134

Tel.0799-38-0570 Fax.0799-37-2030

info@a-kawara.jp

<http://www.a-kawara.jp/>



居間から雪見障子と土庇のむこうに南庭をのぞむ



客間から畳敷きの広縁を介して南側庭をのぞむ